

令和7年度 赤穂市学校(園)評価 外部評価報告書

学校園名	赤穂市立御崎小学校
------	-----------

1 本年度の学校(園)経営方針

「夢と志をもち自ら考え行動できる児童の育成」を学校教育目標とし、知・徳・体のバランスのとれた児童の育成をめざす。そのため、めざす学校・教師・家庭像を明確にして学校経営を推進する。

<めざす学校像>	<めざす教師像>	<めざす保護者像>
◇ 全ての児童が安心して学べる安全な学校(いじめ、暴力の防止)	◇ 児童一人一人の良いところや成長を認め、ほめて伸ばす教師	◇ わが子とじっくり語り合える保護者
◇ 教職員全員がチームの一員として誇りと自覚を持って、職務を遂行する学校	◇ 児童一人一人に居場所のある学級経営を行う教師(よいものを光らせる よいものを認め、広める)	◇ わが子にめあてをもたせ、実現に向けて励ます保護者
◇ 凡事徹底ができる学校	◇ 教育の専門家として学び続ける教師(得意分野づくりを通じた指導力の向上)	◇ 家や地域でわが子の手本となるよう努める保護者
◇ 家庭や地域と共に児童を「共育」する学校コミュニティの創造		

2 本年度の学校(園)重点目標

重点Ⅰ 確かな学力の確立	重点Ⅱ 道德教育の充実	重点Ⅲ 人権教育の充実
重点Ⅳ 思いやりの心の育成	重点Ⅴ 健康・安全・体力づくりの推進	重点Ⅵ 児童理解に基づく生徒指導の充実
重点Ⅶ キャリア形成の支援	重点Ⅷ 特別支援教育の充実	重点Ⅸ 学校業務改善の推進

3 自己評価結果 (A~D) A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成できなかった D:達成できなかった

◎:適切である ○:ほぼ適切である △:あまり適切でない ×:適切でない

領域	観点 (重点目標)	評価項目(学校園・教師の取組)		評価資料	達成状況	改善の方策	自己評価 は適切か	改善方策 は適切か	課題と来年度具体的改善方策
		項目	評価指標および目標値(期待される姿)						
学 校 運 営	開かれた 学校づくり	項目	学校教育の情報発信・啓発	アンケート 教職員自己評価	A	・毎月のブッククラブ(読みきかせ)活動、光和会との交流会(1年生:昔遊び、5年生:グランドゴルフ・モルック)をはじめ、多くの方に来校していただき、地域の特色や人材を生かした教育活動を展開することができた。今後も地域の方に協力をいただきながら、地域の特色や人材を生かした教育を推進する。 ・保幼小ならびに小中連携事業を継続し、異校種間の園児・児童・生徒理解を深める。	○	○	・「学校だより」により学校の取組がよく分かる。また、参観日やスポーツフェスティバルなど学校行事を通して学校の様子を見る機会もあり、子ども達の元気な様子がうかがえ安心した。 ・光和会(老人会)を中心に地域の高齢者と児童の交流学習を地域とのつながりという観点から継続して欲しい。高齢者への友愛訪問も高齢者の方が大変喜ばれるので、来年以降も可能であれば続けてほしい。 ・御崎の海、塩田、緞通等、地域の特色や人材を生かした教育活動を今後も展開してほしい。
		指標	地域の人材を授業に活用するなど、住民参加型で家庭や地域の教育力を有効に活かす教育が推進できた。	アンケート 教職員自己評価 授業記録					
		項目	住民参加の地域の特色を生かした教育活動の推進	アンケート 教職員自己評価 授業記録					
		指標	地域の人材を授業に活用するなど、住民参加型で家庭や地域の教育力を有効に活かす教育が推進できた。	授業交流 教職員自己評価					
	生徒指導	項目	好ましい人間関係をつくる組織的な協力体制の充実	児童の様子 教職員自己評価	A	・「生活指導委員会」を中心に児童の実態に基づいた毎月の指導事項を引き続き協議、共通理解のもとで生徒指導に取り組む。その中で、児童が自分から進んで行動できるように、児童会で具体策を考え、取り組む。 ・今後も「いじめ対策委員会」「不登校対策委員会」で事案の共通理解を図り、全教職員でよりよい方向に向け、組織的に取り組みを進める。	◎	◎	・いじめ問題や不登校問題に対して家庭環境にも配慮して対応されている。また、アンケート結果を踏まえて、いじめ問題に対して細かく対応されている。保護者が不安を抱かぬように児童へのきめ細かな観察と声かけ、家庭との連携を密にして次年度も進めてほしい。 ・挨拶を自分から進んで出来る子が少しずつ増えてきたが、今後も「あさがお運動」の取組を継続し、どの子も進んで挨拶できるようにPTA・地域と協力して挨拶運動を深めてほしい。
		指標	生活指導委員会を中心に、好ましい人間関係づくりや生徒指導上の課題解決に、全職員が共通理解して指導を行ってきた。	児童の様子 教職員自己評価					
		項目	児童生徒の内面理解に基づく生徒指導の充実	児童の様子 教職員自己評価					
		指標	児童の悩み、いじめや不登校問題に対し、早期発見・早期対応に努めてきた。	児童の様子 教職員自己評価					
	健康教育	項目	健康意識向上と自己健康管理能力の育成	児童の様子 保健記録 アンケート	A	・「体育委員会」で、児童が運動が楽しくなるような具体策を考え、運動を楽しんでいる児童を増やす取組を進める。 ・SC、SSWなどと連携しながら、不登校傾向、特別な支援を要する児童の心の居場所となる学校づくりを推進する。 ・「早寝早起き朝ごはん」運動では、学校と家庭で成果と課題を共有し、児童に関わるよう連携を深める。	◎	◎	・家庭や地域、保・幼・中などと連携し、児童の健康の保持増進や体力の向上によく取り組んでいる。 ・これまで以上に学校関係者と連携をし、その心の居場所づくりに努めて欲しい。 ・学校ではインターネット、SNSなどの利用のルールやモラル向上のために家庭への啓発を一層進め、今後は講演会等も積極的に行って欲しい。
		指標	業間・昼休みの時間の外遊びや継続的な体力づくり運動、手洗いの励行等を進め、児童の健康管理意識の向上に努めた。	児童の様子 保健記録 教職員自己評価					
		項目	保健室の管理・運営	児童の様子 保健記録 教職員自己評価					
		指標	保健室の機能を生かした保健管理・保健指導、心の居場所づくりができています。	教職員自己評価 アンケート					
安全教育 防災教育	項目	防災教育・安全教育の実践	防災授業研究 避難訓練 教職員自己評価	A	・健康安全・危機管理に関わるマニュアルの改善を図り、教職員研修の充実を図ることで、児童の実態により即した指導や訓練ができた。今後は、児童の安全意識の向上や技能を高めていきたい。 ・警報発令時の対応や引き渡し訓練のマニュアルを保護者配付するとともに、ICTを活用した情報発信・収集を行ったりすることで、学校と保護者との連携がスムーズに行えるようになっている。今後もこの取り組みを推進していく。	◎	◎	・様々な訓練を保・幼・小合同で実施することは続けて欲しい。特に、避難所管理運営マニュアルを活用するなど、今後も防災体制の整備を地域との連携を密にして深め、より防災意識を高めていくことが必要である。 ・自転車の乗り方、ヘルメット着用などの指導などを、自分の身を守るために学校で指導するだけでなく、PTAと協力して、保護者へも啓発をする必要がある。	
	指標	授業や防災訓練などで防災・減災の意義を伝え、児童の防災スキルや防災意識を高めている。	校内研修会 教職員自己評価						
	項目	危機管理体制の整備と実践的な研修・訓練	児童の様子 アンケート						
	指標	防災計画や危機管理対応マニュアルに基づき緊急事態に対応できる。	児童の様子 アンケート						
組織運営	項目	学校の教育目標達成のための学校運営・責任体制の整備	教職員自己評価	B	・受容的な職員室の雰囲気、協働性や同僚性のある職員組織を継続し、年齢や性別に関わりなく互いに学び合う組織の充実を図る。 ・自分の役割に責任をもって、主体的に校務を遂行できるよう取り組む。 ・児童の学びの質向上を念頭に、効果的で効率的な学校運営ができるよう学習カリキュラムや学校行事の充実・精選を図る。 ・勤務記録簿への記録による勤務時間の自己管理など、さらなる適正化の対策の継続が必要。	◎	◎	・今年度の授業参観やオープンスクールの様子を見ていると、児童だけでなく先生方の表情の明るさや雰囲気のよさを感じる。御崎小学校がチームワークを大切に教職員一丸となって児童の教育にあたっておられることが伝わり、安心できる。 ・教職員の勤務時間や水曜日が定時退勤日であることを学校だよりや運営協議会で知った。遅くまで仕事をされているようなので、先生方も健康にも気をつけて欲しい。保護者や地域住民に周知することは学校への理解を深める意味でもよいことだ。	
	指標	よりよい学校・教職員集団・自分になるために、報告・連絡・相談体制を徹底し、責任をもって校務分掌を遂行している。	教職員自己評価						
	項目	教職員の共通理解に基づく学級づくり・授業づくり	教職員自己評価						
	指標	教職員がよく連絡を取り合い、互いの学級経営の状況を把握し学年・学年部等でそれぞれの課題の共通理解を図りながら学級経営や授業を進めた。	児童の様子 教職員自己評価						
	項目	学級経営の基本理念	児童の様子 教職員自己評価						
	指標	児童が学校生活を楽しく感じられるような支持的風土や学習環境づくりに努めた。	勤務記録簿 教職員自己評価						
項目	勤務時間の適正化	勤務記録簿 教職員自己評価							
指標	超過勤務を縮減し、定時退勤日には定時退庁し、心身の健康管理に努める。								

教 育 課 程	教職員の資質 実践的指導力 の向上	項目	教育の専門家としての実践的指導力の向上	研究記録 教職員自己評価	B	・児童の主体的な学びを目指し、国語科を中心として言語活動の充実を図る授業づくりに取り組んだ。全教員が研究授業を行うことで学校としての学びを深めることができた。 ・来年度は、学級づくり・学力向上を中心に研究を行う。 ・校内研究日のさらなる有効活用を行い、全体研修を定期的に行い、職員の資質の向上を図る。	○	○	・先生方は児童に真剣に向き合い、分かりやすく工夫して授業を行っていると感じる。これからも教職員一人一人がめざす教師像を持ち、自己研鑽を続けて欲しい。
		指標	校内研究が計画的に推進できている。	教職員自己評価					
	施設整備	項目	安全点検の徹底	点検記録 教職員自己評価	A	・毎月の安全点検で、校舎内外の安全点検について複数の教職員で目配りをしてきた。引き続き、補修箇所についても総務課や業者に連絡したり、係で対応するなど迅速に対応していく。	◎	◎	・今後も定期的な点検を行うとともに、各自の点検場所だけでなく、児童の休憩時間や放課後などを利用して、普段、目の届かない場所も目配りをして、点検してほしい。
		指標	安全点検が確実に実施され、営繕が進んでいる。	教職員自己評価					
	基礎基本の 確実な定着 と創造性 の伸長	項目	分かる授業づくり	授業研究 学習記録 児童の様子	B	・兵庫型新学習システム(外国語・理科専科)の活用により、専門性の高い教育活動の推進を図る。 ・ICT(タブレット端末)の活用により、言語や知識の獲得、個別最適化されたドリル学習に繰り返し取り組むことで、基礎基本の定着を図る。 ・研究推進を中心とした授業改善に取り組み、基礎基本の徹底、活用や応用による基礎基本の定着を図る。また、教科の学びを教科横断的に活用できる授業づくりを進め、児童自身が学びの価値を感じ取れる学習活動を展開する。 ・評価基準に基づき逆算的に授業や家庭学習の到達目標を定めることで、児童の力を把握し、具体的手立てを講じられるようにする。 ・保護者と連携した家庭学習の取り組みを推進する。	○	◎	・今年度も、人権教育を中心として、学んだことを生かして主体的に学習を進めることを中心とした授業づくりが行われており、児童一人一人が伸びやかで活発に学習していた。来年度も、一人一人を大切にしたい教育活動を展開してほしい。 ・保護者アンケートの結果から、兵庫型学習システムの専門的な指導や、個に応じたきめ細かな指導などにより、基礎・基本の定着に効果も上げていくのがよく分かる。一方、保護者が先生方の努力を認めながらもさらにすべての児童に「分かる授業」を期待していることも分かるので、家庭学習の習慣づくりと関連させながら充実させてほしい。また、ICTのさらなる活用を目指した学習形態の工夫をお願いしたい。
		指標	児童が「分かった」「できた」と思える楽しく達成感のもてる授業を行うよう、創意工夫に努めた。	学習記録 教職員自己評価					
		項目	個に応じた指導の工夫と基礎基本の定着	学習記録 教職員自己評価					
		指標	新学習システムやきめ細かな指導、朝学タイムでの習熟学習等、個に応じた指導を工夫した。	読書記録 ブックママ記録 児童の様子					
		項目	朝の読書活動	授業記録 授業公開					
		指標	ブックママと連携する等、読書意欲を喚起し、年間50冊以上の本を読むことができるよう取り組んでいる。	ノート 評価資料 児童の様子					
		項目	体験的・問題解決的な学習の展開	道徳教育年間指導計画の評価・アンケート					
		指標	体験を通して主体的に学ぶ学習展開や学習形態を設定し、学ぶ意欲や関心を高めた。	児童の様子 アンケート					
	道徳教育	項目	全教育活動の中での道徳性の育成	道徳教育年間指導計画の評価・アンケート	A	・道徳教育の全体計画のもと、各教科をはじめあらゆる教育活動の特質に応じて、全ての教職員が協力して道徳教育を推進する。 ・教職員が相互に道徳の授業を見あうなど、授業スキルの向上を継続して図る。 ・児童のアセスメントの充実を図り、道徳的価値や道徳的実践力が日常生活の中で具現化された時に、大いに称賛することで、道徳的価値や道徳的実践力を高める。	◎	◎	・全教育活動の中で、自分と友達を大切にし、みんなで力を合わせて楽しい学校づくりを目指していることが、学校行事や参観日などの子ども達の様子を見ているとよく分かる。 ・道徳の時間が確保され、先生方の授業力も研修を行うことで向上が図られている。今後は、家庭との連携をこれまで以上に工夫してほしい。
		指標	全領域において道徳性を培うように計画している。	カリキュラム 教職員自己評価					
		項目	互いを認め合う学級づくり	カリキュラム 教職員自己評価					
		指標	学級の中で、人間の生き方の自覚や道徳的実践力を育成している。	カリキュラム 教職員自己評価					
総合的な 学習の時間	項目	ふるさと意識の醸成	カリキュラム アンケート	A	・環境教育、福祉教育などの体験活動の際、地域人材や地域教材の活用を図り、郷土を愛する心を育んだり、探究的学習態度を培う。 ・協働的な学習場面を多く設定し、教科での学びを横断的に活用できるようにする。	◎	◎	・3年生を中心とした環境体験学習や地域の方々との交流を通じた体験学習は、御崎小学校の地域性を生かした取組なので今後も継続し、充実させてほしい。 ・全学年で様々な福祉体験活動を行っていることは、大切であり、続けてほしい。	
	指標	地域や児童の実態に応じた特色ある展開がなされている。	教職員自己評価 授業研究						
特別活動	項目	自発的・自治的な態度、支持的風土の涵養	児童の様子 教職員自己評価 アンケート	A	・特別活動を人間関係づくりの基盤ととらえ、たてわり班活動や児童会活動、学校行事を通じて児童の主体性を育む取組を従来から継続してきている。児童の人間関係構築に良い影響をもたらしているため、今後も継続して取り組んでいく。 ・「キャリアファイル」を活用することで、児童自らがこれまでの活動を振り返り、自分の変容や成長を実感できるようにする。 ・学校教育活動に主体的に働きかける態度を培うことで、社会へ働きかける態度と資質を育む。	◎	◎	・昔に比べ、異年齢集団の自然的な交流が少なくなっている中で、異年齢交流活動に熱心に取り組まれていることが、学校行事などの紹介などでも伺われる。参観日や学校行事などで児童は、明るく仲よく楽しく過ごしている様に見えるのは、この取組の成果でもあると思う。 ・今後もいじめ問題などが起こらないように、児童の人間関係を良好に保ち、見守っていくことが大切だ。	
	指標	児童は、学級活動・行事・クラブ活動・委員会活動等に積極的に参加し、仲間を思いやった行動ができている。	児童の様子 授業研究						
	項目	自主的・実践的な活動の活性化	児童の様子 アンケート						
	指標	学級活動(話し合い活動)や係活動などに進んで参加し、学級をよりよくしようと諸問題の解決に努めている。	児童の様子 アンケート						
特別支援教育	項目	異学年交流(たてわり班活動)	児童の様子 授業研究	B	・個別的教育指導計画、教育支援計画の定期的な見直しを校内委員会で行ってきた。今後も一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の充実が図れるよう取り組みを進める。 ・3学級ある特別支援学級が1つの学年団として機能的に教育活動を展開できるようにするため、クラス名を「ひなた1組、ひなた2組、ひなた3組」と変更する。 ・特別支援ブロック会議を定期的に行うことで、組織的・効果的に指導支援が行えるようにする。	◎	◎	・一人一人の児童が自立できるように、あたたかい雰囲気大切にしつつ、全校で特別支援学級を支援し、取組を一層進めてもらいたい。 ・より一層一人一人の児童理解を進めるために、今後も指導計画や支援計画の見直しや引継ぎを確実に行ってほしい。 ・児童理解を深めるためにも、職員研修を継続的に行ってほしい。	
	指標	一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の充実	教職員自己評価 指導記録簿						
	項目	校内支援体制の充実	教職員自己評価 就学指導記録						
	指標	児童個々の課題を明確にして一人一人の発達段階に応じた指導を行うよう努める。	教職員自己評価 指導記録簿						
人権教育	項目	適切な就学指導	教職員自己評価 指導記録簿	A	・自他を尊重し、一人一人が活躍できる授業づくり・生活づくりの推進を図る。 ・教職員の受容的・肯定的な指導支援により、児童が他者とのよりよい関わり方を自ら考え、自他共に幸福感を感じられる人間関係づくりに取り組む。 ・特別活動を軸にした教育活動を展開することで、児童の達成感や充実感、自己有用感を高める。 ・みさきの木を活用して、自分たちの良さを実感できる取組を進める。	◎	◎	・アンケート結果から、児童が仲よく過ごしていることが分かる。児童の心身の成長に向き合い、一人一人が自分の意志を伝えられる様に一層取り組んでほしい。 ・困ったときに相談相手になれるように、一人一人の児童によく話しかけてやってほしい。今後とも児童が楽しい学校生活を送れるよう、細かい所まで注意して見守ってほしい。 ・家庭や地域との連携を深め、すべての大人が児童一人一人に温かい愛情を注ぎたい。	
	指標	教員の共通理解や関係機関との相談等、適切な就学指導に努める。	児童の様子 アンケート						
	項目	仲間づくり	点検記録簿 教職員自己評価						
	指標	自他の命を大切に思いやり助けあい支え合う共生の心を育ててきた。	児童の様子 アンケート						

自己評価における特記事項

・学校自己評価は、肯定的評価の割合をから算出した。
A:85%以上 B:75%以上 C:60%以上 D:それ以外

項目以外の点での来年度の課題や具体的改善方法

・児童・保護者アンケートにおいてCやDに評価をつけた児童・保護者の思いを丁寧に聞き取り、その思いを原点として教育実践の深化を図る。
・赤穂市教育振興基本計画(赤穂教育プラン)に沿った「夢を育む教育」をめざして、その成果と課題を明らかにし、新たな課題に向けて実践化に励む。